

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22242009

研究課題名(和文) 中世宗教テキスト体系の総合的研究 寺院経蔵聖教と儀礼図像の統合

研究課題名(英文) Comprehensive Research on the System of Medieval Religious Texts: Integrating Sacred Texts of Temple Archives and Ritual Icons

研究代表者

阿部 泰郎 (ABE, Yasuro)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：60193009

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,700,000円

研究成果の概要(和文)：中世日本の知のアーカイブスである寺院経蔵の聖教典籍群を、諸分野と連携し、儀礼や図像の水準を複合し総合的に認識するため、“宗教テキスト”という研究概念を構築した。真福寺大須文庫をはじめ、民間に伝承されるテキスト群に及び、悉皆的かつ復元的な目録作成と電子データ化を遂行し、考証と解釈を試み、その全体像と体系について着実にデータを蓄積した。その中核となる禅籍の解明など画期的な成果を得て、グローバルな研究発信と展覧会等による社会への還元も果たした。それを踏まえ、人文学全体の活性化に貢献し、未来に継承すべき“宗教テキスト遺産”について更なる探査と研究を推進する機関を設立し、展開するための基盤を築いた。

研究成果の概要(英文)：In order to comprehensively understand the cluster of sacred writings held in temple repositories, the archives of medieval Japanese knowledge, and to achieve an integrative analysis of ritual and icons in cooperation with various disciplines, we developed the concept of “religious texts.” The project catalogued and digitalized texts of Shinpukuji Osu Bunko and texts of popular circulation. Analyses and interpretative research yielded data providing a synoptic view of this system. Groundbreaking progress was made in the elucidation of Zen texts, the core of the project. We were able to return the fruits of this research to society through global dissemination and public exhibitions. Our project thus contributed to the revitalization of the humanities as a whole, established an institution facilitating research on the heritage of religious texts which must be transmitted to successive generations, and laid the foundation for the advancement of this research.

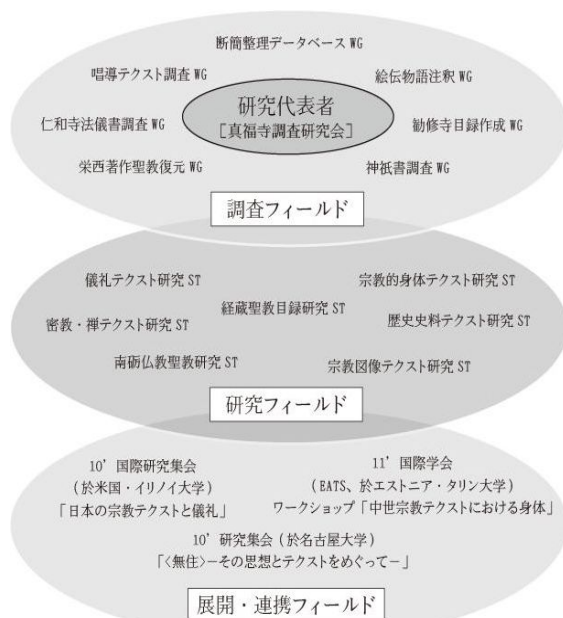
研究分野：日本文学 / 中世文学 / 宗教テキスト学 / 日本思想史 / 芸能史

キーワード：寺院経蔵 聖教典籍 顕密仏教 神道 真言密教 禅籍 宗教テキスト 書誌

1. 研究開始当初の背景

中世寺院がいかなる知のアーカイブスであったか、その全体像を総合的に解明することは、人文諸学にとって等しく豊かな資史料の基盤を提供すると共に、新たな学問領域開拓のフロンティアである。既に文学研究の側からの長期にわたる科研共同研究、基盤(B)「中世寺院の知的体系の研究」(2000~2006)「中世宗教テキスト体系の復元的研究」(2007~2009)による基礎的な成果があり、それを踏まえ、本研究はより広汎な人文諸学各分野の先端的研究を組織化して結集した。一方、研究代表者の属す名古屋大学文学研究科の10年間にわたるCOE「統合テキスト科学の構築」とGCOE「テキスト布置の解釈学的研究と教育」(2002~2011)では、方法理論としてのテキスト解釈学的実践的展開を、アーカイブスを構成する宗教テキストのフィールドにおいて試みることが求められた。真福寺をはじめ対象となるアーカイブスやそのテキストは、地域にとっても貴重な文化遺産として、研究成果の社会への還元は必須であり、海外との学术交流の推進においても、この資源を介して国際的な研究拠点を築くことは急務であった。こうした人文学に求められる社会的・国際的要請に応えることを前提として、更に、歴博など人間文化研究機構の諸機関および国立諸大学の人文学関連分野の研究者との連携による共同研究を進展させることも、重要な責務である。文学以外でも歴史学の「宗教遺産学の構築」(京都大学)と美術史学の「大画面説話画研究」(学習院大学)との協力と共同は、それらを基盤において支えつつ研究理念を相乗的に錬磨する効用が期待された。

【中世宗教テキスト体系研究/組織図】



このような経緯により設立された、調査/研究/連携展開の各フィールドは、領域融合型研究によって遂行される多元複合の人文学の実験であり、その仮説モデルとして宗教テキスト学が提案されたのである。

2. 研究の目的

最も興味深い宗教文化を生みだした中世という時代区分を焦点として、日本における“宗教テキスト”についての総合的・包括的な研究を通し、その学術体系の構築を課題とする。その対象は多岐にわたるが、基本的に三つの方向からアプローチする。

(1) 寺院経蔵を中心に、それらを構成する諸種の水準のアーカイブスの生成・伝来過程の解明を含めた、聖教文献の目録およびデータベース化を通じたそれらの体系の復元的な探査を目指す。

(2) テキストを、儀礼(法会、唱導、祭礼、芸能など身体所作・パフォーマンスに及ぶ)の次元での機能の位相と、図像(本尊・曼荼羅・肖像・絵図・説話画・荘厳・絵巻絵本などのイメージ)の次元との関連展開する位相との相関として捉え、宗教テキストを文化的表象の動態の許に位置付ける。

(3) 人文学の基盤となる資料学を、宗教テキストの解明のため諸学を横断してその成果を集約することにより、先端的かつ国際的な人文学の高度化を目指す。日本の宗教テキストは、研究資源としても無尽蔵というべき豊かな宝庫である。本研究により、それらの成果が統合されれば、卓越したあらたな学術創成の基礎を築くことが可能となる。

3. 研究の方法

上記の目的を達成すべく、各フィールドに二種の調査研究組織を設けた。主に寺院経蔵を対象とするアーカイブス創成や、資料探査、目録作成、データ化等の基盤的作業を中心とする機動性のあるワーキング・グループ(WG)を複数組織する。同時に、それを経てテキスト化された資料により、課題を設定し問題提起を行う解釈研究を推進するスタディ・チーム(ST)を立ち上げ、各自の主題毎に分野を横断したパーティとして自律的な研究活動を行う。それは自ずから成果としての注釈、資料集、論集等の執筆編集に従事することになる。これらの組織による調査研究は、常に社会(資料所蔵者、機関、地域自治体、市民、企業、メディア等)との連携と協働を、その活動において実践することも、方法の一環である。成果還元と発信の方途として、学術論文や書籍だけでなく、自治体誌や展覧会図録など市民向けの媒体も計画された。

4. 研究成果

全体を基盤的アーカイブス構築(1)、学術的研究成果(2)、国際的研究発信と社会連携(3)に分けて記述する。

(1) 基盤的アーカイブ構築

真福寺大須文庫の調査については、「調査研究会」を設立(2011)し、書庫改修に合わせ、悉皆調査と目録化の基礎となる全点の点検目録を作成、断簡の復原と整理を完了しデータベースによる入力作業を開始した。基本台帳「黒板目録」の入力作業も始めた。猿投神社典籍については、漢籍の再調査と電子アーカイブス化への準備に着手した。花祭花太夫文献は探査による目録を完成し「花祭アーカイブス」構想を立ち上げた。勤修寺大経蔵については聖教目録を完成、重文指定の為に文化庁による点検中である。富士市六所家資料東泉院聖教については目録化を完了し、資料集編集に至っている。

(2) 学術的研究成果

研究代表者による本研究の成果を総合した体系的論著『中世日本の宗教テキスト体系』(2013)は、諸テキスト位相を網羅展望し、それらを統合する論理構造を示す。代表者の編になる研究分担者、連携研究者、研究協力者による総合研究成果『中世文学と寺院資料・聖教』(2010)、同じく代表者の編になる、地域のアーカイブスと宗教テキストを網羅し体系的に紹介した『愛知県史別編文化財4典籍』(2015)の調査執筆も併行して行われた。学術資料として、真福寺の調査にもとづく『中世禅籍叢刊』の刊行計画が決定し、その第一巻『栄西集』(2013)を刊行、他にも準備が進められている。また、『無住 研究と資料』(2012)の編集刊行を助成した。代表者による人間文化研究機構の公募共同研究「中世仏教における儀礼テキストの総合的研究」の成果「歴博蔵『転法輪鈔』翻刻と解題」の作成を支援し、これを掲載する年報(2015刊行予定)にその総論にあたる論文を執筆した。この他、多数の論文が執筆され、各分野の学会で講演・発表等により成果を発信した。

(3) 国際的発信と社会連携

特筆すべきは、本研究の最先端の成果の多くを国際学術研究交流の場において発表したことである。EASJ第13回タリン大会パネル「中世日本の宗教的身体観」(2011)をはじめ、本科研を主催・共催とする海外日本研究拠点大学における研究集会(ロンドン大学2011、ハーバード大学2012、イリノイ大学2013、台湾政治大学2014等)において代表者や分担者が中心となり宗教テキストに関わる研究成果が発信され、名古屋大学では毎年国際研究集会を催して、多くの国内外の研究者に課題と成果が共有された。社会との連携と成果共有の実績としては、名古屋市博物

館と共催した「大須観音」展と図録『大須観音』の刊行(2012)、同じく「奥三河のくらしと花祭・田楽」における「花祭アーカイブス」展示(2013)、城端絵解きフォーラム開催(2013)と『城端別院の虫干法会』刊行(2014)、法隆寺聖徳太子絵伝講演会(2013)、仁和寺伝法会講演会(2012・2013)など、多岐にわたる。

以上の実績を元に、研究と連携交流を推進する機関として名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター(CHT)が設置(2014)された。

こうして2013年度までに目標とする主要な課題をほぼ完成し、または実現の目処が立った為、CHTを拠点とする大型研究課題を計画し、最終年度前年度に応募し、採択されたのが基盤(S)「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究」であり、これは副題にうたう「人文学アーカイブス・ネットワークの構築」をより広汎にかつ国際的に推進し、人類の文化遺産としての宗教テキストの記憶庫としてのアーカイブス創成を目指すものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 18件)

阿部泰郎、中世宗教テキスト体系の範疇 - 密教寺院の成立と展開における経蔵とその目録の形成をめぐる、日本宗教文化史研究、査読有、14巻2号、2010、1 - 17

阿部泰郎、西行における 神 の発見 - 参宮というテキスト、西行学、査読有、創刊号、2010、31 - 43

阿部泰郎、中世熱田宮の宗教世界 - 熱田をめぐる宗教テキストの諸相、神道史研究、査読有、58巻2号、2010、2 - 24

近本謙介、解脱房貞慶の唱導の多面性と意義 - 今津文庫所蔵『解脱上人御草』所収「南京北山宿非人等敬白」をめぐる、説話文学研究、査読有、45号、2010、126 - 138

近本謙介、南都復興の継承と展開 - 慶政の勸進をめぐる二つの霊託、文学、査読無、11 - 1、2010、65 - 88

阿部泰郎、寺院資料調査と中世文学研究、中世文学、査読有、56号、2011、1 - 6

牧野淳司、鎌倉後期の寺院社会とその文化的環境、査読有、56号、2011、14 - 25

上島享、日本中世社会の形成・展開と修正会・修二会 - 講経法会との対比から - 、芸

能誌研究、査読有、192号、2011、21 - 31

稲葉伸道、鎌倉中・後期における王朝の神社政策と伊勢神宮、名古屋大学文学部研究論集 史学、査読無、58、2012、1 - 20

岡田莊司、鎌倉幕府の將軍祭祀 - 源頼朝を中心に、神道宗教、査読有、113巻11号、2012、3 - 31

落合俊典、日本仏教における疑經の受容と生成、日本仏教学会年報、査読有、77号、2012、185 - 198

上島享、中世仏教 再考、日本仏教総合研究、査読有、10号、2012、89 - 116

阿部泰郎、The Position of Ganmon in Medieval Japanese Buddhist Rites: Ganmon as Core Religious Texts、国際東方学会議紀要、査読有、57巻、2013、57 - 79

稲葉伸道、弘長三年東寺觀智院金剛藏「仁和寺興隆俟約等條々」について - 鎌倉中期の仁和寺御室、名古屋大学文学部研究論集 史学、査読無、59、2013、99 - 121

末木文美土、高山寺蔵『五蔵曼荼羅』 翻刻と研究、高山寺典籍文書調査団平成二十四年度研究報告論集、査読無、2013、3 - 7

上島享、勸進と聖 - 空也像の再検討を中心に -、立教大学日本学研究所年報、査読無、10・11合併号、2013、86 - 97

伊藤聡、神道灌頂の形成、立教大学日本学研究所年報、査読無、10・11合併号、2013、79 - 85

牧野淳司、安居院流唱導資料の流布と活用：転法輪鈔と松尾寺再興啓白文、國學院雑誌、査読無、114(11)、2013、397 - 410

[学会発表](計 20件)

阿部泰郎・牧野淳司他、シンポジウム「寺院資料調査と中世文学」、中世文学会平成二十二年度春季大会、2010年5月29日、法政大学

阿部泰郎、聖徳太子の世界像、日本宗教文化史学会、第14回大会、2010年6月26日、京大会館

阿部泰郎、中世日本の宗教テキストと芸能、国際研究集会「東アジアにおける儀礼テキストと表象文化」、2010年10月6日、アメリカ・イリノイ大学

阿部泰郎、総括報告・中世宗教テキストのゆくえ、ロンドン大学 SOAS 国際研究集会「ことば・ほとけ・図像」、2011年5月11日、イギリス・ロンドン大学

阿部泰郎・伊藤聡他、パネル「中世の宗教的身体観」、EAJS 第13回国際大会、2011年8月25日、エストニア・タリン大学

阿部泰郎、中世における国土の経蔵化 - 一切経形成と霊地埋経運動の統合的把握 -、ハーバード大学国際研究集会「日本仏教研究の領域複合的解明の試み」、2012年5月16日、ハーバード大学

近本謙介、南都における戒律復興と浄土信仰の汎宗派的展開、ハーバード大学国際研究集会「日本仏教研究の領域複合的解明の試み」、2012年5月16日、ハーバード大学

末木文美土、新発見の真福寺所蔵禅籍について、ハーバード大学国際研究集会「日本仏教研究の領域複合的解明の試み」、2012年5月16日、ハーバード大学

上島享、新たな日本中世宗教史像の構築へ、ハーバード大学国際研究集会「日本仏教研究の領域複合的解明の試み」、2012年5月16日、ハーバード大学

阿部泰郎、日本中世の仏教儀礼における願文の位相 - 宗教テキストの核心としての願文、第57回国際東方学会議シンポジウム「日中「願文」の比較」、2012年5月25日、日本教育会館

阿部泰郎、中世宗教テキストとしての和歌と唱導 - 賀茂重保と澄憲 -、仏教文学会、2012年9月7日、龍谷大学

阿部泰郎、The Mushiboshi-hoe at Johana Betsu-in: An Unveiling Assembly as Urban Buddhist Ritual and Its Performance Arts、東アジアの宗教をめぐる交流と変容、2013年10月9日、アメリカ・イリノイ大学

近本謙介、Religious Policies and Temple Arts in the Late Ancient Period、東アジアの宗教をめぐる交流と変容、2013年10月9日、アメリカ・イリノイ大学

上島享、Re-visioning Japanese Buddhism in East Asian Buddhist History、東アジアの宗教をめぐる交流と変容、2013年10月9日、アメリカ・イリノイ大学

松尾恒一、Temple Rituals and Performance from Ancient to Medieval Times: The Embellishment of Religious Celebrations and Its Transformation、東アジアの宗教

をめぐる交流と変容、2013年10月9日、
アメリカ・イリノイ大学

阿部泰郎、中世仏教における 百科全書
テキストの系譜 - 密教図像集の形成とその
展開、国際会議「仏教と百科事典」、2013
年10月24日、フランス コレージュ・ド・
フランス

落合俊典、中世経蔵の概要 - 石山淳祐内供
蒐集聖教を例として -、国際会議「仏教と
百科事典」、2013年10月24日、フランス
コレージュ・ド・フランス

阿部泰郎、唱導における宗教文献の諸相 -
日本仏教の展開と唱導文献の変遷、東アジ
ア宗教文献学会、2014年3月15日、台湾・
国立政治大学

近本謙介、唱導における勸進託宣の位相、
東アジア宗教文献学会、2014年3月15日、
台湾・国立政治大学

牧野淳司、唱導における安居院の位相、東
アジア宗教文献学会、2014年3月15日、
台湾・国立政治大学

〔図書〕(計 24件)

阿部泰郎編著、末木文美土・落合俊典・松
尾恒一・近本謙介・牧野淳司他、竹林社、
中世文学と寺院資料・聖教、2010、646

阿部泰郎他、講談社、天皇と芸能(天皇の
歴史第10巻)、2011、100 - 200

近本謙介・末木文美土・川崎剛志他、ある
む、無住 研究と資料、2011、734

阿部泰郎・錦仁編著、三弥井書店、聖なる
声 - 和歌にひそむ力、2011、237 - 257

松尾恒一、角川学芸出版、儀礼から芸能
へ：狂騒・憑依・道化、2011、237

松尾恒一、吉川弘文館、物部の民俗といざ
なぎ流、2011、241

末木文美土他編著、阿部泰郎・伊藤聡他著、
ペリかん社、日本思想史講座2(中世)、
2012、405

小林健二編著、阿部泰郎・松尾恒一他著、
竹林舎、中世の芸能と文芸、2012、589

阿部泰郎監修、あるむ、大須観音：いま開
かれる奇跡の文庫、2012、253

伊藤聡、中央公論新社、神道とはなにか -
仏と神の日本史 -、2012、306

阿部泰郎、名古屋大学出版会、中世日本の
宗教テキスト体系、2013、598

阿部泰郎、名古屋市博物館、奥三河のくら
しと花祭・田楽、2013、143

阿部泰郎・末木文美土他編著、臨川書店、
中世禅籍叢刊 第一巻 栄西集、2013、581

阿部泰郎・伊藤信博編著、勉誠出版、『酒
飯論絵巻』の世界、2014、190

末木文美土他編著、阿部泰郎他著、岩波書
店、日本の思想 第四巻 自然と人為、
2013、320

末木文美土他編著、落合俊典他著、春秋社、
シリーズ大乘仏教10 大乘仏教のアジア

末木文美土、春秋社、浄土思想論、2013、
256

上島享他著、岩波書店、日本歴史第6巻
中世1、2013、310

阿部泰郎監修、城端別院善徳寺、城端別院
の虫干法会、2014、256

阿部泰郎・末木文美土他編、臨川書店、中
世禅籍叢刊 第六巻 禅宗清規集、2014、
805

⑲阿部泰郎・末木文美土他編著、臨川書店、
中世禅籍叢刊 第五巻 無住集、2014、546

⑳阿部泰郎監修、愛知県、愛知県史 文化財
4 典籍、2015、814

㉑阿部泰郎編著、伊藤聡他著、富士市教育委
員会、六所家総合調査報告書 聖教、2015、
461

㉒阿部泰郎・松尾恒一・近本謙介・牧野淳司
他著、国立歴史民俗博物館、研究報告第188
号「中世仏教における儀礼テキストの総合
的研究」、2015、刊行予定

〔その他〕
ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 泰郎 (ABE, Yasuro)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：60193009

(2)研究分担者

稲葉 伸道 (INABA, Nobumichi)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：70135276

末木 文美士 (SUEKI, Fumihiko)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：90114511

落合俊典 (OCHIAI, Toshinori)
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授
研究者番号：10123431

松尾 恒一 (MATSUO, Kouichi)
国立歴史民俗博物館・研究部・教授
研究者番号：50286671

上島 享 (UEJIMA, Susumu)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：60285244

近本 謙介 (CHIKAMOTO Kensuke)
筑波大学・人文社会学研究科・准教授
研究者番号：90278870

伊藤 聡 (ITO, Satoshi)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：90344829

岡田 莊司 (OKADA, Shyouji)
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：60146735

牧野 淳司 (MAKINO, Atsushi)
明治大学・文学部・准教授
研究者番号：10453961

(3)連携研究者

上川 通夫 (KAMIKAWA, Michio)
愛知県立大学・文学部・教授
研究者番号：80264703

小林 健二 (KOBAYASHI, Kenji)
国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：70141992

川崎 剛志 (KAWASAKI, Tsuyoshi)
就実大学・人文学部・教授
研究者番号：70281524

坂本 正仁 (SAKAMOTO, Masahito)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：00235186

苔米地 誠一 (TOMABECHI, Seiichi)

大正大学・人間学部・教授
研究者番号：00340456

武内 孝善 (TAKEUCHI, Kouzen)
高野山大学・文学部・教授
研究者番号：60131611

西岡 芳文 (NISHIOKA, Yoshifumi)
神奈川県立金沢文庫・学芸課長
研究者番号：90443407

米倉 迪夫 (YONEKURA, Michio)
研究者番号：70099927

渡辺 匡一 (WATANABE, Kyoichi)
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：40306098

鷹巣 純 (TAKASU, Jun)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：00252205

藤原重雄 (FUJIWARA, Shigeo)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：40313192

末柄豊 (SUEGARA, Yutaka)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：70251478

伊藤信博 (ITO, Nobuhiro)
名古屋大学・国際言語文化研究科・助教
研究者番号：90345843